

MUSASHINO PARK-LIFE MAGAZINE

MPM

2016
AUTUMN
WINTER
VOL.6

むさしのパークライフマガジン

YOUR PARK LIFE: Park Life × つくるあそぶ
FOCUS: パークレンジャーとものづくりを楽しむ
ESSAY: ヴィンテージのピクニックカップ

公園からはじまる、気持ちのいい一日。

季節を感じ、ほっとできる場所。

なにもしない、贅沢な時間。

……きっと、公園で過ごす時間は暮らしを豊かにする。

私たちは、そんなことを思っ日々公園で働いています。

公園を使いこなすと、どんなライフスタイルが待っているのか。

この「MUSASHINO PARK-LIFE MAGAZINE」では、

ちょっと素敵な自然のこと、

いままで気づかなかった生きものの不思議、

暮らしを豊かにする公園の使いこなし方、などなど。

公園で働く私たちだからこそお届けできる、

“パークライフ (Park Life)”の魅力をお伝えしていきます。





都立武蔵野公園「秋の風景」

Park Life × つくるあそぶ


公園には、自然がつくりだすさまざまな色やかたちの植物がたくさんあります。

「きれい!」「不思議だな」と思う葉っぱや実を見つけて、お気に入りのおもちゃや飾りをつくってみませんか？



あざやかに紅葉した葉っぱ、ソルソルのどんぐり、ふっくらと丸い木の実など、秋の公園には、この季節にしか見ることのできない植物の姿があります。公園を歩き、落ちている葉っぱや実を手にとると、飾りたくなるほどきれいな色をしていたり、不思議な生きものの顔に見えてきたりしませんか？公園では、そんな秋の植物を使って飾りやおもちゃをつくる、ワークショップやイベントを開催しています。ここで紹介するいくつかのおもちゃや飾りを参考に、日常でも、季節の実りを取り入れたものづくりをしてください。

都立武蔵国分寺公園「ふんぶんウォーク」



草も木も実をつけるため、秋是一年の中でも実の種類が最も多くなります。赤や紫など色もさまざまで、クリのように丸いトチノキの実や、赤い目をした生きものにも見えるコブシの実など、不思議なかたちもたくさん！お気に入りの実を見つけて、ちょっぴり不気味でかわいい、自分だけのようかいをつくってみましょう。作品を見ながら「このようかいの名前は？」「どんな場所に住んでいると思う？」と親子で会話をしてみると、普段歩いている公園も違った世界に見えてくるかもしれません。

都立武蔵国分寺公園「あそブンの森・コロコロ木の実であそぼう！」

木のようかいのつくりかた

用意するもの

- 木の実、草の実
(トチノミ、クヌギ、ヘクソカズテ、アオキなどなど)
- 白丸シール
- 木工用ボンド
- ペン

①好きな木の実を集めたら

②木のようかいを
イメージして形を
つくってみよう



③木工用ボンドで
くっつけて
いこら。

④しあげに
磨きざすり。目のシールをはいてみよえ
ようかいの完成!



「国分寺まつり」の中で公園が毎年行っている木の实マーケット。
ここから自分の好きな木の实を選び、クラフトづくりの材料に。

どんぐりマラカスのつくりかた

用意するもの

- ・どんぐり（クヌギ、コナラ、マテバシイなど）
- ・透明コップ2つ
- ・マスキングテープ



クヌギやコナラのどんぐりは虫が出やすいため、冷凍するか、10分～15分煮沸した後しっかりと乾燥させるのがおすすめ。





子どもたちが大好きな木の实といえば、やっぱりどんぐり！丸くてコロコロとしたどんぐりを公園でたくさんひろったら、透明なプラスチックのコップに好きなだけ入れて、自分だけのマラカスをつくってみましょう。歌や音楽に合わせてシャカシャカ鳴らしてみるのはもちろん、クヌギやマテバシイのような大きなものを入れた時と、コナラやシラカシのような小さなものを入れた時など、どんぐりの種類によって音に違いが出るのも楽しんでみてください。

都立武蔵国分寺公園「あそぶの森・森のおんがくたい！」



冬の訪れを感じさせてくれるマツボックリも、花のようなかたちをしたカラマツや、たまご型をしたクロマツなど、さまざまな種類があります。フジやクズなどのツルで土台のリースをつくり、マツボックリやカラフルな木の実、スパンコールなどで飾り付けて、冬のイベントを彩る、オリジナルのリースをつくってみませんか？

都立武蔵国分寺公園「あそぶの森・森のクリスマス」



都立武蔵国分寺公園で行われるイベント「あそブンの森」、2016年は12月10日に開催予定。
公園で見つけた葉っぱや木の実を使った、楽しいプログラムが満載（雨天の場合は翌日）。

木のリースのつくりかた

用意するもの

- ・ワイルド（ワグ、ワグズなど）
- ・スパンコールなどの飾り
- ・マツボックリ
- ・リボン
- ・モール
- ・木工用ボンド
- ・木の实



- ① ワイルドに土台のリース作り。
直径を10cm位の円き
つくり、ワグズを4ヶ所
いします。
- ② お気に入りの実を
ボンドでくっつけて
- ③ 飾りもあしらわれり、
くっつけて仕上げます。

④ リボンもつけたらできあがり。



パークレンジャーとものづくりを楽しむ ：むさしのカレッジ

自然の中にある植物の「かたち」。それをじっくり観察し、作品にすることで、身近にある自然の面白さを感じることができます。ここでは、「むさしのカレッジ」で行われた冬芽ブローチづくりを紹介します。



野川公園では、武蔵野エリアに暮らす人たちにこの地域のことをもっと知ってもらいたい、自然とのつながりを暮らしの中で楽しんでもらいたい、という想いから「むさしのカレッジ」という講座を行っています。昨年の冬には、冬の自然を楽しむというテーマをもとに「冬芽ブローチ」づくりを行いました。



パークレンジャーの案内のもと、参加者みんなで公園を歩き、作品のモチーフとなる冬芽を観察。冬の野鳥もたくさん見ることができた。



かたちや色などをスケッチ。写真に撮るだけではなく、じっくり眺めて、自分の手で記録することで、冬芽のかたちに愛着が湧いてくる。

冬芽は、晩夏から秋にかけてつくり、休眠して冬を越え、春に伸びて葉や花になります。寒さを防ぐために鱗片で覆われているものも多く、その姿をよく観察すると、模様があつたり、かわいい顔に見えたりするのです。この日は、パークレンジャーの解説を聞きながら、そんな冬芽を観察し、デザインを考え、羊毛フェルトで刺繍をしてブローチにしました。

じっくりと観察し、それをモチーフにものづくりをすることで、私たちの身近にある自然の不思議さ、力強さに改めて気づくことができます。寒い時期はつい家中にこもってしまいがちですが、公園を散策しながら、自然の姿や季節の訪れを楽しんでみてください。



葉を落とした木は種類がわかりにくくなってしまいますが、冬芽や葉痕を観察すると、特徴からその木の名前を知ることができます。



自分の好きな冬芽を選び、スケッチなどをもとにデザインを考える。模様に見えたのか、かわいい顔に見えたのか、人と比べるのも楽しい。



布にデザイン画を写し、羊毛フェルトでチクチク刺繍をします。ブローチの型にくるんで縫ったら、世界に一つだけの「冬芽ブローチ」が完成！

＼ 参加者募集！ ／
都立野川公園 自然観察センターにて開催！

NEWS

むさしのカレッジ「じっくり冬芽観察&ゆったり冬芽ブローチづくり」

午前中はパークレンジャーと自然観察園を歩いて、冬芽や葉痕を観察。午後からは自分でデザインした「冬芽ブローチ」を羊毛フェルトで刺繍しながらつくります。ものづくりをたのしみながら、冬の自然の面白さについて学んでみませんか。ぜひ遊びにいらしてください！

- [開催日時] 2017年1月28日(土) 10:00～15:00
- [定員] 先着15名(高校生以上) [参加費] 1,000円(保険料、資料など含む)
- [申込先] 都立野川公園自然観察センター(調布市野水 2-2)
TEL 0422-31-9033(12/15 より受付開始)
- [アクセス] JR中央線・武蔵小金井駅南口から京王線調布駅北口行き京王バスにて「野川公園一之橋」または「二枚橋」バス停下車徒歩5分



ヴィンテージのピクニックカップ

Episode. 6

花小金井駅のロータリーを出ると、もうそこが狭山・境緑道の入口だ。桜の葉がわずかに色づき始めている。

緑道へ入る角に大きな木がある。多くの人がその葉に触れてゆくのがおもしろい。急ぎ足の男がさつと手を伸ばし、お腹の大きなお母さんが優しく触れる。

「ほらこんなにきれいな葉っぱ！」

後ろから彼女の声があった。先に来て、桜の葉を拾っていたのだ。秋の桜は、木を見るより拾った落ち葉が美しい。赤と黄が混じる葉を手に、僕は緑道を歩き出す。

道の下を水道管が走っているから、昔はこの道を水道道路と呼んでいた。多摩湖から境浄水場まで、人々の暮らしの中心をゆく、まっすぐ10・5kmの緑の道。

やがて道の脇に畑が多くなり、遠くに広い空が見えてくる。右手の森は小金井公園。その中の湧き水が石神井川の源流だ。石神井川を渡る所で、橋のように土が盛られ、水道道路はその上を通された。「馬の背」と呼ばれる200mの長大な土橋である。

「ここは東京の草原の原風景だよ。白い穂はチガヤ。ススキもカルカヤもある。」

彼女は手を広げ、大きく息を吸い込んだ。土手を歩けば柔らかな翅のバツタがハラハラと飛ぶ。草の中に、少し遅いツリガ

ネニンジンが咲いていた。昔、いつも行く公園で、この花が草刈りされ、がっかりしたことがある。でも秋に行ったら、小さな水色の花がいつぱい咲いていた。

「びつくりして僕は、その花を覗き込んだんだ。小さな釣鐘からトーンと音がしたような気がしたよ。」

「その時のあなたを、横で見っていたかった。」

ツリガネニンジンやワレモコウは、大昔に大陸から来た植物で草刈に強い。遊牧の馬や羊に食まれ生きてきた「草原の花」が、ここには満ちあふれている。

僕は「馬の背」に腰かけ、珈琲をいれた。

「短い話ね」と彼女は言い、本の朗読を始めた。珈琲を飲みながら、僕はその短編小説に引き込まれてゆく。現実と幻想が交互にやつてくる話。時々僕は話を忘れ、ただ彼女の声と、草の音だけを聞いている。こんなふうに我を忘れてしまえる時間がとても大切に思える。桜の落ち葉に、草の土手に、バツタの羽音に、柔らかな彼女の声に、花の音色に、僕は何度も我を忘れ、そしてまたこの道を歩く。

蜂須賀公之

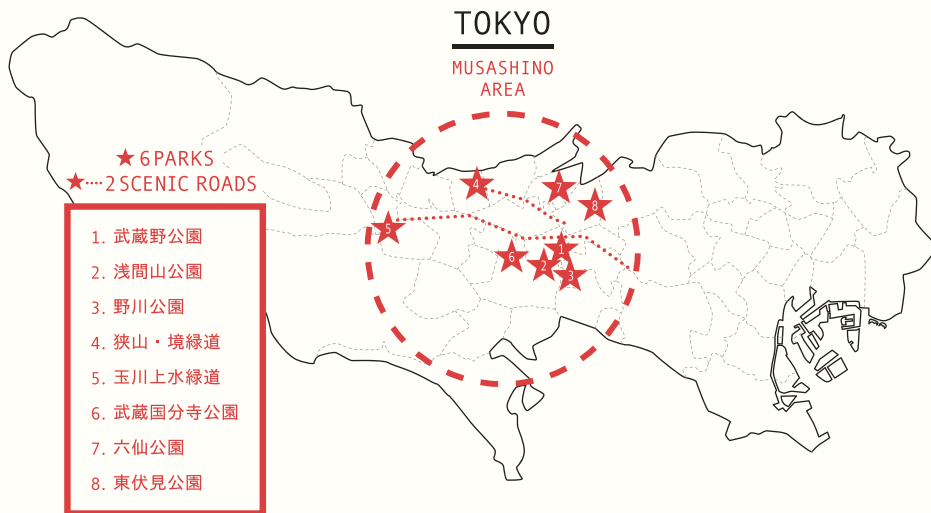
はちずかまゆき


武蔵野生まれ、武蔵野育ち。東京の自然をこよなく愛するレンジャー、インタープリター。

西武・武蔵野パートナーズ

武蔵野エリアにある都立公園の指定管理者「西武・武蔵野パートナーズ」は、2011年より武蔵野エリアの公園と緑道を管理してきました。2016年からは西武造園(株)・NPO法人NPO birth・ミズスポーツサービス(株)に、一般社団法人防災教育普及協会を加えた共同事業体として、新たなスタートを切りました。

「人・自然・まちが元気になる公園に」をコンセプトに、武蔵野の自然と文化を大切にしながら、さらに公園の可能性を広げるため、みなさんとともに、元気になる公園づくりをすすめます。



発行：西武・武蔵野パートナーズ TEL:0422-31-6457(都立野川公園) <http://musashinoparks.com> 

発行日：2016年10月15日

デザイン：川上明子

イラスト：高安恭介 (P6-P11)

編集・製作：西武・武蔵野パートナーズ/リュエル・スタジオLLP

印刷・製本：シナノ書籍印刷株式会社

表紙写真/都立武蔵野公園 (撮影:蜂須賀 公之)

MUSASHINO
PARK-LIFE
MAGAZINE

SEIBU・MUSASHINO PARTNERS

<http://musashinoparks.com>